



福智町と協定を結ぶKBC防災担当として日々自然災害と向き合う解説委員の太田祐輔さん。「災害多発時代」と呼ばれる今、新型コロナウイルス感染症とのいまだかつて無い「複合災害」の危機についてお話を伺いました。

「コロナ」前代未聞の命を守る

「コロナ」と災害に備えて



九州朝日放送(株)防災ネットワーク担当 **KBC 太田 祐輔**さん

宮崎県出身の50歳。早稲田大学卒業後、「南日本放送」の勤務を経て、平成12年に「九州朝日放送」へ入社。プロ野球実況や情報番組のアナウンサーを歴任し、現在では防災部門の「解説委員」を務めている。

到来した「災害多発時代」
3年連続で特別警報を発令

「地球温暖化」を原因とする降水量の増加や海水温の上昇などで、年々豪雨や台風などの自然災害が多発しています。福岡県内では、実際に平成29年から3年連続で10年に1度規模の大雨が発生。平成30年の「西日本豪雨」では、福智町でも河川の氾濫や増水などで「犠牲者が出なかったことが奇跡」と言われる程の大きな被害を受けました。「事前に予想ができる」といわれる水害。しかし、最近では予報に反して「強い雨が急激・局地的に降る」などの豪雨やスコールが頻発しています。このような「災害多発時代」に直面する現代の日本では「今年は大丈夫」という確証は絶対にはありません。むしろ「災害は起きる」という前提で、日頃から「もしも」に備えておくことが求められています。

甚大災害のリアル受け止め
「自分で命を守る」意識を

災害から命を守るために必要な要素に「自助・共助・公助」の3つがあります。私たちは「災害時は町や警察、消防が助けてくれる」と思いがちですが、実際に大規模な災害

1 雨の恐ろしさを痛感

私の自宅は他に比べ低い場所にあり、大雨の増・冠水には慣れていたので西日本豪雨の発生時も「そのうち水は引く」と思っていました。しかし、次第に水かさが増し、最終的に床下まで浸水。逃げ遅れた私たちは、ご近所さんの通報で消防隊に救助され、無事避難することができました。この恐ろしい豪雨の体験を忘れず、今後は早めに避難したいと思います。

西日本豪雨で被災・救出された日高 千春さん(市場)

「コロナと災害」、前代未聞の災害から命救う絆を大切に

また今年も、例年の災害リスクに加え、新型コロナウイルス感染症のリスクも考慮する必要があります。現状で災害が発生した場合、三密回避の難しい避難所への避難は必ずしも最善策とは言えません。政府などは「ホテルや知人宅、車を活用した避難」などの新しい避難を推奨。

その中でも被害を受けない知人宅への縁故避難は、手軽・気軽に実践できます。「いざ」というときに円滑な避難ができるよう日頃から身内や知人、近所のかたとのつながりを大切に。前代未聞の「複合災害」に備えてください。

住民総出で「防災力」高めた上弁城地区防災訓練。



が起きた場合「同じタイミングで複数の被害が起こる」など、同時多発的に被害が発生するケースがほとんど。その中で、警察・消防・自衛隊・自治体職員などの限られた人員で行う「公助」では、助かる見込みのある現場から救助・支援することが鉄則。救助者も命がけで対応にあたるなど、極限状態でおこなわれる「命の選択」の中で、皆さんが不運にも「選ばれなかったら」と想像してみてください。残酷な話ですが、これが甚大な災害現場のリアル。だからこそ、自分の身は自分で守る「自助」が命を守るために重要な鍵を握るのです。私たちは、この現実を真剣に受け止め、防災に取り組みいかなければなりません。

「自助・共助・公助」について

自分の身を自分で守る「自助」、近隣や地域と協力して身を守る「共助」、国や自治体の支援を受ける「公助」の連携で防災に務める考え方のこと。

自助
70%

命を守る、3つの「助」

共助
20%

公助
10%

集団感染防止を考慮した避難所の設営について

福智町では、新型コロナウイルスの感染拡大防止を踏まえた避難所の設営を次のとおり整備していきます。

- ▶ 避難所にサーモグラフィ(検温)カメラの設置
- ▶ 避難所内の社会的距離を意識した空間の確保
- ▶ 定期的な換気 ▶ 広報紙・ウェブでの情報発信

詳しくは、町公式ホームページで確認するか、防災管理係へお問い合わせください。

問 役場防災管理・管財課
防災管理係 ☎22-7771



2 あの日から10年が過ぎ

平成21年、豪雨による「上弁城土砂災害」が発生。1人の尊い命が奪われました。発生から10年目の昨年7月、「この災害を風化させてはいけない」と思い、実際の災害を想定した防災訓練を実施。参加した地域の住民65人と消防団員の防災意識と地域連携を強化することができました。災害時は、この訓練の成果を生かし、誰一人として犠牲にしない避難に務めていきます。

方城1区(上弁城)区長 永末 信一さん



→今回福智町が導入した「サーモグラフィ」(体温カメラ)。開始数秒で体温が計測できる優れもの。

